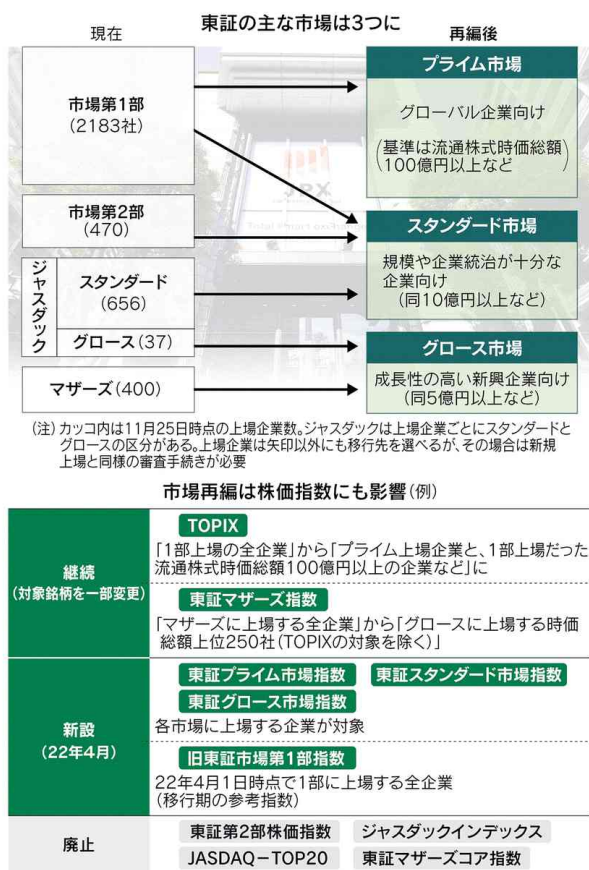


上場企業の特徴 明確に

東証、市場再編のねらい



東京証券取引所の株式市場が再編されます。現在の1部、2部など主な4市場は3つになり、それぞれの名前も変わります。株式などを取引する個人投資家にはどのような影響があるのでしょうか。

Q 東証の市場再編の内容を教えてください。

A 東証には現在、1部と2部、ジャスダック、マザーズという4市場があります。それを企業の規模や流通する株式の価値などにより、プライム、スタンダード、グロースの3市場にします。

Q なぜ再編するのですか。

A その市場に上場する企業の特徴を明確にして、投資家の利便性を高めるのが狙いです。例えば新興企業向け市場にはジャスダックとマザーズがあります。2つは役割が重複し、違いが分かりづらくとされます。また、1部には上場後に企業価値を高める動機が弱いとの指摘もあります。プライムでは投資家に魅力がある銘柄を前に

提出し、上場維持基準を設けます。

Q 3つの市場の特色は。

A プライム市場は海外投資家の売買の対象となる「グローバル企業」向けです。現在の1部市場上場、流通株式時価総額が100億円以上の条件を満たす企業です。流通株式時価総額はグループ企業や創業者などの保有株式を除く、市場に出回りやすい株式と株主を指した額です。金額が大きければ市場の評価が高くなり、売値の機会が増えやすいといえます。

Q ほかに2つは。

A グロース市場は新興企業向けです。成長可能性が高い一方、事業上のリスクが大きい企業が対象です。事業基盤がプライムのようになんて安定してないため、合理的な事業計画などの情報開示も求められます。スタンダードはグロースよりも事業が安定し、プライムより規模が小さい上場企業です。

Q 現在の市場は再編後のどの市場に移るのですか。

A 企業はどの市場に上場したいかを今年12月末までに決めます。再編後の市場には上場を維持するための基準があり、それを満たせば、希望の市場に移れます。1部上場企業はプライムからスタンダードに移ります。2部はスタンダード市場へ、ジャスダックはスタンダードからグロース、マザーズはグロースに移るのが標準です。

Q 東証1部でもプライム市場に移れない企業があるのですか。

A 原則はそうです。ただし、市場再編時には経過措置があります。流通株式時価総額などの基準を満たさなくても、改定策や達成の時期を計画書で示して取り組み、プライムに移れます。

Q 投資家にはどのような影響がありますか。

A 個別株の取引などに直接の影響はありません。しかし、その市場の動向を示す株価指数には注意が必要かもしれません。株価指数には値動きが連動する投資信託やETF(上場投資信託)が作られている場合があります。指数の構成銘柄の変更や指数そのものがなくなることもありそうです。

Q 具体的には。

A 例えば東証株価指数(TOPIX)は構成銘柄を変えて継続します。対象を1部の全企業からプライムの上場企業と現1部企業で流通株式時価総額が100億円以上の企業などに変わります。東証マザーズ指数も銘柄を変えて継続します。いずれの指数も再編後、段階的に銘柄を入れ替えます。日経平均株価は構成する25銘柄の上場市場を1部からプライムに変更します。

Q 指数に連動する投資信託などはどうなりますか。

A TOPIXなど継続する指数に連動する投資信託やETFには基本的に影響はありません。ジャスダックやマザーズを代表する企業で構成する「JASDAQ-100」「P20」と東証マザーズコア指数は廃止、日経ジャスダック平均株価は算出を終了します。再編後の3市場についてはそれぞれ動向を示す指数が新設される予定です。連動する投資信託などが設定される可能性もあります。(藤井良憲)